

図書館がすすめる 夏休みの本(5・6年向き)

『クローディアの秘密』
E.L.カニグズバーグ／作 岩波書店(933カ・ク)

毎日同じことのくりかえしにあきたクローディアは、弟と家出をします。そして、メトロポリタン美術館に向かいます。夜は美術品のベッドで寝たり、開館中は館内を見学して生活していた2人は、美しい天使の像に心ひかれ、作者は誰なのか調べ始めます。



『トラからぬすんだ物語』
テュ・ケラー／作 評論社(933ケ・ト)

リリーは、ハルモニ(韓国語でおばあちゃんのこと)の家にあらわれた大きなトラから、病気のハルモニを救いたければ、ハルモニが自分から盗んだものを返すよう取引をもちかけられます。リリーは、ハルモニのために勇気を出してトラに立ち向かおうとしますが…。



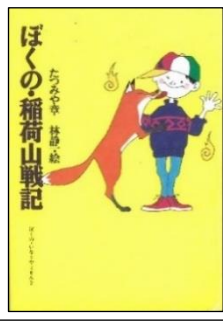
『野生のロボット』
ピーター・ブラウン／作 福音館書店(933ブ・ヤ)

嵐で沈んだ貨物船から無人島に流れ着いたロボットのロズは、内蔵されたコンピューター頭脳で動物から生きる術を学びます。さらに、親をなくしたガンのひなを育てることで、動物たちとの絆を深めていきます。しかし、ある日、3体のロボットが島に上陸し…。



『ぼくの・稲荷山戦記』
たつみや 章／著 講談社(913タ・ボ)

裏山にある稲荷神社の巫女の家系であるマモルの家に、長髪で純和風イケメンの守山さんが下宿することに。裏山の古墳と森を破壊するレジャーパークの開発を阻止するという守山さんの計画と正体を知ったマモルは協力して、古墳を守ろうとしますが…。



『起業家フェリックスは12歳』
アンドリュー・ノリス／著 あすなろ書房(933ノ・キ)

友達が描いたバースデーカードを気に入った祖母のロコミで、いろんな人からカードを買いたいと言われたフェリックスは、カードをネットで販売するというビジネスを思いつきます。友達や叔父さんのおかげでビジネスは成功し、大金を手に入れますが…。



『今、空に翼広げて』
山本 悦子／著 講談社(913ヤ・イ)

5年生の真紀は、同じ通学班で1年生の翼が気がかりでなりません。なぜなら、家族や通学班のみんなに悪いことがおきるの、自分の呪いがうつったせいだと思い、学校に来なくなってしまったからです。そこで、真紀は翼の呪いをとこうとしますが…。



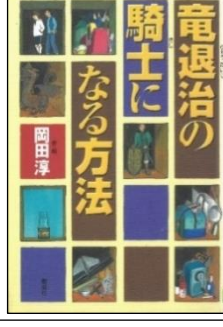
『チームふたり』
吉野 万理子／作 学研(913ヨ・チ)

卓球部キャプテンの大地は、6年生最後の大会で、5年生の純とダブルスを組むことに納得ができません。さらに、家庭でも問題がおき、卓球をやめようか悩みます。そんな時、どんな状況でも、父や家族を守ろうとする母の気持ちに心うたれた大地は…。



『竜退治の騎士になる方法』
岡田 淳／作・絵 偕成社(913オ・リ)

夕暮れ時、学校に忘れ物をしたぼくは、ユウキと2人で学校に忍びこみます。すると、教室には見知らぬ男がいて、「おれは、竜退治の騎士やねん」と言うのです。ウソだと思いつつも、竜退治の騎士になる方法をたずねてみると、それは意外な方法で…。



『ぼくたちのスープ運動』
ベン・デイヴィス／作 評論社(933デ・ボ)

ジョーダンは、入院中に仲良くなったオと「1年間誰かに何かいいことをすると約束し、退院します。学校に通い始めたジョーダンは、お腹をすかせていたホームレスに自分のスープをあげます。その行動は、やがて世界中に広がり、多くの人を救うことに…。



『宇宙食になったサバ缶』
小坂 康之、別司 芳子／著 小学館(667ウ)

「ここでつくったサバ缶を、宇宙に飛ばせるんちゃう?」という言葉から始まった、高校生による宇宙食サバ缶の開発。宇宙で食中毒をおこさないための徹底した衛生管理等、いくつもの厳しい基準や難題をのりこえ、仲間とともに夢を叶えた高校生たちの実話。



『鉄は魔法つかい』
畠山 重篤／作 小学館(452テ)

「鉄」は、自動車や包丁などを作る材料になるだけではありません。植物の成長や人間が生きていくためにも必要不可欠なものです。さらには、食料問題や地球温暖化まで解決できる可能性を秘めています。そんな鉄がもつ魔法のような力を紹介します。



『しんかい 6500』
山本 省三／作 くもん出版(558シ)

深海6500mまで行くことができる日本が誇る有人潜水調査船<しんかい6500>。真っ暗で空気もなく、高い圧力がかかる過酷な環境でも、深海の生物や資源、地形が安全に調査できる船の仕組みと、日本の高い技術力に驚かされます。



『レイチェル・カーソン物語』
ステファニー・ロス・シソン／文・絵 西村書店(Eシ・レ)

鳥をはじめ、生き物の声をきくことが大好きだったレイチェルは、海洋生物学者となり、海に関する本を書いて有名になります。しかし、ある時、生き物たちの声がしなくなったことに気づきます。原因をつきとめたレイチェルは、それを本に書き、自然の大切さをうたえました。



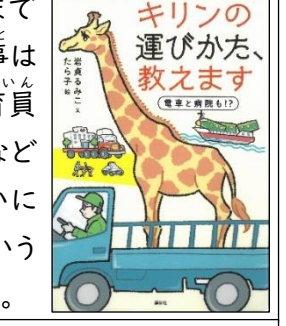
『戦争をやめた人たち』
鈴木 まもる／文・絵 あすなろ書房(Eセ)

第一次世界大戦が始まって5ヶ月後の12月24日。戦争の最前線にいたドイツ軍とイギリス軍の兵士たちは、ざんごうで休んでいました。すると、ドイツ軍の方から「きよし このよる」を歌う声が聞こえてきます。それを聞いたイギリス軍の兵士たちも歌い始め…。



『キリンの運びかた、教えます』
岩貞 るみこ／文 講談社(680キ)

3mあるキリンを岩手から東京まで届ける。「命」あるものを運ぶ仕事は決して失敗ができないため、飼育員はじめ動物の引越し専門業者など多くのプロたちが協力し、お互いに知恵を出しあいます。「運ぶ」という仕事の苦労と大切さがわかる1冊。



『アマゾン川』
サングマ・フランシス／文 徳間書店(296ア)

南アメリカ大陸にあるアマゾン川は、世界で一番大きな川です。川の間には熱帯雨林があり、多種多様な植物や生き物がいます。しかし、今、森林伐採等により豊かな自然が失われつつあります。アマゾン川の恵みを受けて生きる私たち人間にできることはなんでしょうか。

